

風水害等に備えて

一部内閣府広報誌から引用
一部国土交通省ホームページから引用
一部気象庁ホームページから引用
一部千葉県ホームページから引用

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

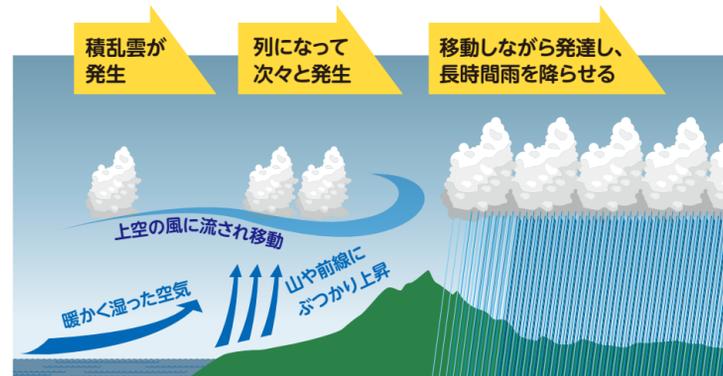
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表する。
大雨警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合
大雨注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合

雨の強さと降り方 (単位:mm/時)

10以上~20未満 「やや強い雨」 ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	20以上~30未満 「強い雨」 どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。	30以上~50未満 「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようなになる。	50以上~80未満 「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。傘は全く役に立たなくなる。	80以上~ 「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。
--	--	---	--	--

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水を伴う雨域。



台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備える必要があります。

台風の大きさ		台風の強さ	
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上~	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上~

風の強さと吹き方 (平均風速:m/秒)

10以上~15未満 「やや強い風」 風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	15以上~20未満 「強い風」 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	20以上~30未満 「非常に強い風」 何かにつかまっていなくて立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	30以上 「猛烈な風」 屋外での行動はきわめて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。
--	---	---	--

水害時の心得

安全な避難経路の確認

避難する場合の避難所までの経路(避難経路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しましょう。



被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、土のうや板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎましょう。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。
※自宅内のトイレや風呂場、洗濯機の排水口に水のう(ビニール袋に水を入れたもの)を置くと逆流を防げます。



避難の前に確認と呼びかけを

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声を掛けながら避難しましょう。



地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢よく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。



川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水を見に行っちゃいけません。やむを得ない場合は2人以上で行動しましょう。河川の様子の確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用しましょう。また、避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避けましょう。



避難所までの移動

風雨が激しくなる前に早めに避難しましょう。避難することが危険な場合は、自宅または頑丈な高い建物の上階へ避難しましょう。(垂直避難)
※車による避難は、渋滞に巻き込まれたり、水没する危険性があります。特に線路などの下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水するので、場所を把握し、迂回路を想定しておきましょう。



歩ける深さは約50cm

洪水の場合、歩ける深さは約50cmまで。水の流れが速い場合、50cm以下でも危険。危ないと判断したら、無理をせず高い場所で救助を待ちましょう。



危険なところには近づかない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近づかないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているため、さわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプが目立つ色の物がよいでしょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒や杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



浸水の深さについて

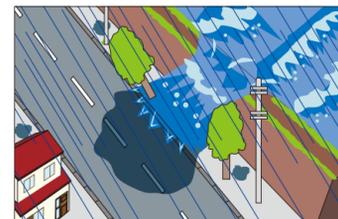


「外水氾濫」と「内水氾濫」

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、市街地の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれおこる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはげき溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示等を出すのが難しいため、注意が必要。

